



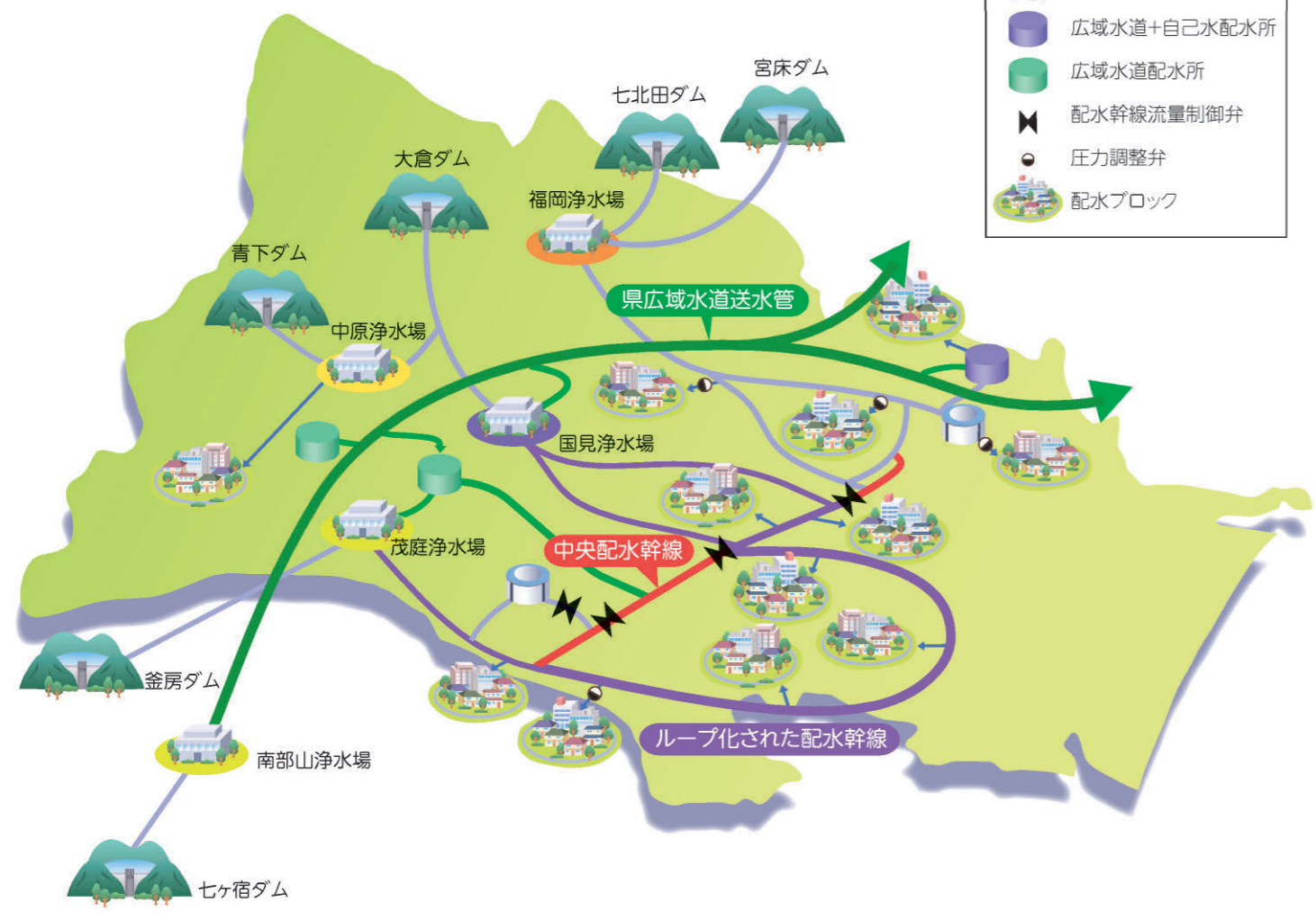
# 弾力的・効率的な配水を可能に

「水運用」とは、施設や水源水量・配水量などの情報をリアルタイムで一元管理し、水道施設全体を効率的に活用しながら水を送るしくみのことです。このしくみによって、常に安定的に水をお届けすることが可能となっています。

仙台市水道局では、水源や浄水場が複数ある利点を活かして、水をお届けするルートが多系統化を図るとともに、給水区域をいくつかのブロックに分割して、水量及び水圧を管理する「ブロック配水システム」の構築を進めてきました。

この「ブロック配水システム」によりきめ細かな水運用が可能となり、配水ルートの適切な選択や、エネルギー消費を考慮した配水を行っているほか、配水量と水圧的確な把握によって、漏水調査の精度の向上、水圧の適正化などを実現しています。

## 水運用の概要図



水運用を行うために整備・活用している情報システムが、「水運用システム」です。「水運用システム」は「監視制御システム」と「施設管理システム」で構成され、さまざまな情報の管理・分析を行うことができます。

### 監視制御システム

水道施設全体が安定的かつ経済的に管理・運用できるよう、取水、浄水、送水、配水ブロックまでの施設状態を常時監視するとともに、浄水場間の送配水量の調整、配水幹線の水量・水圧の監視・制御を行っています。



### 施設管理システム

水道管や配水所、ポンプ場などの情報を地図情報と一体化させ、施設情報を一元管理しています。



## 災害時の水運用



災害や事故により水道施設に被害が生じた場合も、別の水系(ルート)から水を融通することができます。これにより、断水の影響を最小限に抑えることができ、早期復旧にもつながります。